

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 55

2017.12.5 発行

編集責任者：河地 清

[Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp](mailto:Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp)

## 第55回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ 『春日井市民の歴史・文化の誇り～ふるさとの宝』

－小野道風誕生伝説を中心に－

平成29年11月5日(日)市民活動支援センター(ささえ愛センター)において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『「春日井市民の歴史・文化の誇り～ふるさとの宝』』と題して、本会副会長の塚田忠雄(郷土春日井研究会会長)に講演していただきました。

市庁舎の外壁に「書聖 小野道風誕生伝説地」と書かれています。しかし、地元の人に語り継がれてきた言い伝えが根拠でありなから、春日井市民の多くは詳細を知りません。「伝説」は言い伝えられてきた民間「伝承」の中で、「昔話」(娯楽の領域)でないもので、地域・地名、年代など所在地や時代背景が具体的に示されるもの(民俗学者 柳田邦男)と言われています。「小野道風春日井誕生伝説」はまさに「伝説」の定義に該当するものです。その伝説を、歴史的客観性と資料分析で「実証」しようとして取り組んでおられるのが、今回の講師です。

フォーラム参加者は、22名でした。



塚田忠雄 氏



会場風景

## —発表要旨—

これまで何度も春日井市の小野道風誕生地について講演してきたが、誕生地“伝説”の検証が中心で、俗性を極力排除してきた。今回の講演の目的は、市民会館の緞帳に描かれている絵解きの体裁をとって、春日井市民が、春日井の歴史と文化に誇りをもって、知人・友人、来訪者に「ふるさとの宝」として語れるようにとまとめるものである。市民会館の緞帳をこの秋に写真を撮らせてもらった。なじみのあるものではあるが、改めて眺めてみると豊かな奥深さが味わえる。

### I. 「春日井ってどんなところ?」とたずねられたら、「特に何もない」と答えないで!

緞帳の図柄は、中央に道風と柳の木、水たまり(池)があり、蛙がいる。右手奥に密蔵院、その奥に春日井三山、左に棒の手、その後ろに市の花である桜の花の咲く大木がある。右手前には伝道風筆の紀友則の和歌がある。「書のまち春日井」が中心に座ったものになっている。緞帳の下絵は右手入口の壁にあり、大阪市港区南船場の住吉織物株式会社が作成した。紀友則の歌は「めずらしき こゑならなくに ほとゝぎす こゝらのとしの あかすもあるかな」で、その大意が下絵と同じく、右手入口の左の壁に銅板に書かれている。

春日井市には「見るべきもの、他市からの訪問者に紹介すべきものがない」などといわないでほしい。他にもあるが、とりあえずは「ふるさとの宝」として春日井市民に心にとめて欲しいという願いが、この緞帳に描かれていると紹介してほしい。

### II. 緞帳に織り込まれた小野道風像は、松河戸の巨嶽山観音寺所蔵の軸の道風像は市民の宝

市民会館の緞帳に描かれた小野道風(みちかぜ)の肖像に観音寺所蔵のもの選ばれて描かれていることが重要だ。観音寺の隣りに建てられた小野道風記念館が編集・発行した『書聖小野道風』(平成3年刊)は3人の執筆者が書いたもの。春名好重(岡山県出身)、久曾神昇(ひたく)(愛知県出身)、中田勇次郎(京都市出身)が分担した。この本の口絵には明治時代の華族益田孝の寄贈による当時御物となった寄贈品が「頼寿法橋による小野道風肖像画」として載せられている。三人の論文が終わった後、“付録”の図録1頁目(P245)にモノクロで松河戸



の観音寺が所蔵する軸の一部の道風の肖像画部分が切り取って載せられている。軸そのものではなく、部分の切り取りを載せるのは文化財の取り扱いとしてまことに不敬なことである。春日井市の文化財指定にはなっていないが、後日指定されるかもしれないことを考えると、編集者の姿勢はまことにずさ

んで軽薄である。しかし、市民会館の緞帳は春日井「市民の宝」としての敬意を感じる。

注目してほしいのは、松河戸の観音寺の軸に描かれた小野道風像は頼寿法橋による肖像画よりも古いことである。「御物」（正確には元御物）という箔付けにいかにかかり掛かったかを感じさせる。もし、春日井市民会館の緞帳にこの頼寿法橋の道風像が描かれていれば、市民の誇りは吹っ飛んでしまうにちがいない。

### III.小野道風記念館にも観音寺所蔵の軸の「本当の複製品」はない文化財扱いしない低劣さ

観音寺の道風画像と道風の和歌を書いた継色紙のはられた軸の複製が 2 つ作られた。一本は観音寺に、もう一本は隣の小野道風記念館に納められた。しかし、観音寺の複製は継色紙の張り紙だけで和歌はかかれていない。小野道風記念館のものはその色紙さえはられていない。「本当の複製品」はないという意味をわかっただけだろうか。文化的価値をないがしろにする行為である。

軸に奉納者の銘が貼付されている。海東郡(明治 11 年に発足、大正 2 年に海部郡に)の西森村(明治 39 年合併で蟹江町に)の山田治兵衛と大治村(甚目寺の南にある大きな地域)の村上琴堂の二人がこの軸を比叡山から拝領して観音寺に奉納したと書かれている。軸裏に天台座主の明尊(971-1063,座主に任じられのは 1038 年、三日座主で降りる)の花押のある署名がある。父奉時が描いたものとある。奉時は兵庫頭で小野道風は祖父である。道風は 966 年に亡くなっているので明尊は道風死後 5 年の時に生まれたことになる。座主になった 1038 年は道風死後 72 年の時になる。奉時が描いた祖父の小野道風像は信用できると言わざるを得ない。道風の死後直後に生まれた明尊が身近に保管した軸の道風像は信用に足る映像であった筈だ。

最近、なぜ海東郡に二人がその軸を拝領できたのかについて有力な背景が見えてきた。比叡山の座主の異常な任命が見えてきた。詳しくは当日配布した資料を見ていただきたい。一時に 3 人もの座主がいたという不自然な着任が何を語るものか、また、吉田源應が中村勝契との書簡の中で、当時の座主が批判的な言葉を投げかけていることもわかった。また、一宮出身の叡南という高僧(坂本に叡南ありとまで言われた学識高い僧で、座主にはならなかった)の存在、松河戸の観音寺の三世が一宮の馬寄から来ていることなど、比叡山に譲りうける交渉が可能であったとみる。初めて紹介した話である。

### IV.エンターテイメント娯楽の中の小野道風、浄瑠璃歌舞伎「小野道風青柳硯」の行き過ぎ

史実の追究を避けて、史実からは遠い、小野道風の柳と蛙の話がはびこっている。はびこりすぎている。シンボルとして柳に飛びつく蛙の図柄が横行している。「書のまち春日井」のシンボルキャラクターがこの図柄である。市民会館の緞帳もしかり、文化フォーラム 1 階の飾り物も一流人形師の作とはいえ、立派さゆえに春日井市民への小野道風像のイメージの刷り込みになっていると警告する。「小野道風青柳硯」は江戸時代中期、1870 年代の創作で義太夫・浄瑠璃・歌舞伎で人気となったものだ。

今回の講演は、春日井市の歴史・文化の誇りと題して、小野道風誕生伝説地が正当な方法によって検証することを怠って、邪道の道を広げていることへの警告を主眼に、小野道風青

柳硯が無批判に広がっていることを改めて問題提起することにある。市民会館の緞帳に目を向けて市民の宝を素直に受け入れようとするものであった。 (記録：塚田忠雄)

## OPINION

### 『ふるさとを築いた人々をどのように叙述するか』

#### —地域活性化の視点からみた歴史叙述の問題点—

歴史上の人物を叙述するときには、自分自身が歴史の行われた場所や時点に立って、その時代の風景を想像しながら自ら迷い、追体験してみる必要があります。その時代の時点で現在していたであろういくつかの状況、いくつかの条件、いくたりかの人間関係、相関関係などを仮説を立てながらその歴史主体たる人物がわかり得なかった苦悩や「何故、彼はそのような行動をしたのか」「出来たのであろうか」ということを思いやってみる必要があります。

明治維新の激動の渦中であって、ふるさと春日井の危機を乗り越えた功労者の一人、金兵衛が明治 11 年 10 月 25 日未明巡行中の天皇に直訴を試みようとする数千人の農民に対して何故命を賭して阻止する行動ができたのであろうか、農民達の怒りは何故そこまで行動せしめたのであろうか、ほんとうのところはわからない。経済史の分析手法から見れば、日本資本主義の本源的蓄積期に生ずる必然的現象であるとするのですが、しかし、そのことを理解できている者などこの時代に生きた金兵衛といえどもわかるはずもないのです。金兵衛が豪農でありブルジョア階級であるがゆえに反農民的行動ができたとの経済的公式的な見方には何ら説得力をもたないことがわかります。まさに歴史が進行しつつある過程の中で「何故に彼らがそのような選択をしたのか」「しなければならなかったのか」その時の状況の中で、いくつもの取りうる道があったはずです。農民達にも、金兵衛にも、しかし、歴史の現実として残ったのは、たった一つの可能性にすぎなかつたのです。叙述は、その時の状況に身を置いて追体験をする中で、150 年後の距離を置いた今日の中で客観的に見つめることによって、真実に迫ることができるのだと思います。E.H. カーの言う「歴史は過去との対話」だと思います。「なぜあんな愚かな行動をしたのか」公式を当てはめて一刀両断に判断はできないのが時代のなかで苦悩する人間の姿です。歴史叙述の中に「ないものねだり」を挿入できるのは、文学、小説の世界だけが成し得る技になります。

歴史学は、いかに客観的な事実を掘り起こし、真実に迫るかという作業だと思います。

「小野道風」研究を 40 年にわたって続けておられる本会副会長塚田忠雄氏の研究姿勢は、その見本であると思っています。その第一は、小野道風生誕伝説地である上条地区で生まれその地域の風土、風景の中で少年期、思春期、社会人として過ごし正に地域に根付いた純粋の地元人間であることが、大きな強みになっています。自分自身が歴史の行われた場所や時点に立って、その時代の風景を想像しながら自ら迷い、追体験してみることが最も適切な位

置にあるということが言えます。

第二は、歴史的証拠に乏しい伝説、伝承、言い伝えをあらゆる史料を蒐集し、実際にその場に向かい、その場の風景に身を置いてその時代を想像し、その中から様々な視点で仮説を立ててみる。歴史を創造的想像力の中で、原因、結果を探り当てる作業をしておられることです。「小野道風生誕の真実」に迫る発表は伝説、伝承から史実に近づいて行く地道な作業の積み重ねの結果と言えるでしょう。それは、ただ単に郷土史の枠にとどまらない研究視座ともいえます。しかし、こうした真摯に地域の研究に取り組んでいる研究者が活動する環境は決してよくないものです。「道風記念館」へ通えば道風研究ができるかと言えば、文献、史料、人材ともにその様な体制組織にはなっていないように市民の目には映ります。「道風研究文庫」といった、道風とその時代の研究ができるような施設があるといいと思います。勿論、市図書館でもよいのではないのでしょうか。遺跡保存会の活動もどんな活動があるのか、されているのか市民の目にはとまりません。市内には、道風縁の関係遺跡、石碑、伝承など多く存在しているようですがどれくらい市民に伝わっているのでしょうか、検証する必要があるのではないのでしょうか。「記念館だより」が発行されています。講演会、古筆の展示企画など掲載されていますが、「道風研究」に係わる学術的記事、研究論文などが検索できる体制はあるのでしょうか。館内に道風研究をする研究者あるいは、学芸員等は配置されていないようです。あくまでも、「道風」の冠を借りた記念館（博物館）のようです。これは、市民の大いなる疑問の一つだと思います。書道専門博物館であるとともに特色の一つとして、三蹟の一人としての道風研究のセンターとしての役割を担ってこそ、「書のまち春日井」の特色が光る存在になるのではないのでしょうか。繰り返しますが、「まちづくり」「ふるさと再生」の視点から見ても、日本文化史に残る偉大な人物の生誕伝説地と言われ市民の誇りでもある小野道風の名を冠した施設の中に「小野道風」を専門に研究する研究者、史料、文献、を揃え体制を作ることが「書のまち春日井」を看板とする「まちづくり」行政の取り組む課題ではないかと考えます。残念ながら、毎年春日井市総予算に占める「道風記念館」（含む、道風展）「書のまち春日井」関連の総額は、年々情報公開されている予算書を参照する限り極めて低額なものと感じざるを得ません。人口32万都市、「書のまち春日井」「スポーツ文化都市宣言」を標榜する地方自治体として、何に力を集中して行けばふるさと春日井の特色が出るのか「選択と集中」の観点から行政の総合企画をしていただきたいと考えます。「書のまち春日井」では、経済効果は上がらないとの商工会議所を中心とした経済界、一部学識経験者の発想があることは承知の上で敢えて、市民の忌憚のない意見として捉えて下さい。敢えて、文化、歴史、自然の保護、維持に税を使うことこそがこれからの新しい地域活性化の道の一つであることを強く主張したいと思います。

以上のような場合は、春日井の文化財を中心に文化遺産、歴史史跡の保存、維持、研究がより一層行える環境づくりの施策をしてこそ、地方が活性化し、市民が誇りと愛着をもってその地を「ふるさと」と感じられるような地域にすることに繋がることだと思っています。

（文責：河地 清）

次回

## 「ふるさと春日井学」研究フォーラムのご案内

「ふるさと春日井」の魅力を再発見するFORUM

「ふるさと意識なくして地域の活性化なし」

「地域活性化・まちづくりの応援メッセージ」

Forum for Furusato Kasugai Studies

第57回 Forum テーマ：『地域活性化の事例研究』

### 『鳥居松地域の歴史と地域活性化の取り組み』

日時：**平成30年2月4日(日) 午後1時30分～3時30分**

場所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）八幡小学校西側

TEL：0568-56-1943（〒486-0837 春日井市春見町3番地）

講師：**河地 清 氏**

「ふるさと春日井学」研究フォーラム 会長  
鳥居松商店街賛助会員

フォーラム内容：

「鳥居松」地域は、古来よりふるさと春日井の発展の中心的地域として今日まで歩んできました。西は上条、南は庄内川を境に、松河戸、下条、北は朝宮、柏井までを含む広範囲に及ぶ地域でした。歴史的には古代に条里制の布かれた肥沃な土地と、小野道風生誕地伝説のある、由緒ある地域として、今日まで発展してきました。近代になって、今日のような鳥居松町となり、下街道を中心とする商業地域として発展してきました。近年は地域経済の構造的変化と共に商業地区はシャッター商店街化してきています。地域再生、活性化に取り組む商店街の取り組みを紹介します。・・・後はFORUMで

**(非会員の方のみ資料代 500 円徴収させていただきます。)**

※事務局：〒486-0825 春日井市中央通り 2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

**ふるさと春日井学検索**

